「ボツリヌストキシン療法について」

楡の会 整形外科　松山 敏勝
楡の会 ハビリテーション課　中野 由子

１．ボツリヌストキシン療法とは？

ボツリヌス菌（発酵食品での食中毒の原因菌）が作り出す天然のたんぱく質を有効成分として利用した薬の治療です。最初に販売された薬がボトックス®というため、ボトックス治療といわれることが多いです。

この薬は直接、筋肉内に注射することで筋肉を収縮させる神経の伝達を抑える作用があります。結果、筋肉の緊張を和らげることができ、関節の動きが広がり、痛みが和らぎます。

（※菌そのものを注射する訳でないので、ボツリヌス菌に感染する危険性はありません）

数年前から同じ効能でゼオマイン®という薬も認可されました。ボトックス®は上下肢の痙縮のほか、現在は痙性斜頸、眼瞼痙攣のほか、斜視、過活動性膀胱、重度な腋窩多汗症など 11 の疾患にも使用が認められています。

治療は、専門の講習を受けた医師によって行われ、毎回、事前の登録をすることが必要なため、受診してすぐその場で行うことはできません。

２．適応である痙縮（けいしゅく）とは？

筋肉が緊張しすぎて、手足が動かしにくくなったり、姿勢が崩れてしまったり、勝手に動いてしまったり、本人や介助者が日常生活に困っている状態が続いている時が適応といえます。

関節の運動が制限される状態には筋肉の緊張の原因の他に、関節や骨の変形、靭帯の変化（強直（きょうちょく）や拘縮（こうしゅく））になってしまった状態があります。この場合には効果が乏しいので、この薬が自分に有効かどうかは主治医やセラピストに尋ねることが大切です。

この薬は１回の使用量には各部位や年齢による制限があります。

このため、いろいろな部位に同時に治療する場合に、すべての部位に有効な量を使用することがむずかしいことがあります。

そこで、治療の目的をある程度絞って治療することが大切です。

たとえば、「肘が動きやすくなる」「足首や足指がやわらかくなる」「握ったままの手指を開きやすくする」「閉じたままの股（また）を開きやすくする」などの的を絞って治療することで効果を実感することが多いです。

３．治療の費用は？副作用は？

治療は保険適応があります。しかし、注射薬が非常に高価なことが問題です。今は数年前に比べ、だいぶ薬価が下がったとはいえ、身体障害者手帳を持っていない方の場合で、保険診療の３割負担では１回の治療で１万円から数万円する場合もあります。

重度障害や各種医療者助成をうけている場合は自己負担なしや１－３千円前後の負担で治療を受けられますので、かかりつけの医療機関に事前に尋ねることが大切です。

有効な効能の反面、副作用の心配は他の薬と同様にあります。ボトックス®の副作用は①薬の副作用と②注射による副作用があります。薬の有効成分であるたんぱく質に対するアナフィラキシーショック（アレルギー反応)、過剰な筋弛緩作用、嚥下や呼吸障害などが数%の頻度で報告されています。注射の副作用としては、注射部位の出血斑、腫脹、疼痛、感染などです。注射後、15－30 分は静かに様子をみて、2－3 日は体調や注射部位を観察することが大切です。

４．効果はどの位続くか？その後の注意点は？

効果は、薬が筋肉内に浸潤していく２－３日目から徐々に表れ、1 週間くらいで安定期にはいり、通常は２－３ケ月効果が持続します。

効果が続かない場合は、年に２－３回注射を受けることになります。

何よりも薬の効果のある時期にしっかりリハビリを行うことが大切です。

この注射を受けてからリハビリを行うことで、よりリハビリの効果を高め、効果の持続を長く得られることが可能です。

この治療は、薬とリハビリを合わせて行うことがポイントです。継続的にリハビリを行っている方では年 1-２回の治療で維持している方も大勢います。

まずは、治療を受けることが自分、家族にとって有効かどうかを主治医の先生や担当のセラピストに相談することをお勧めします。

楡の会では毎週水曜日と木曜日の午後に整形外科松山先生の外来でボツリヌス治療を行っています。ボツリヌス治療についてご相談のある方は整形外科の受診をしてください。松山先生による診察と説明を担当セラピストが同席の上受けていただき、ボツリヌス治療の予約をおとりします。

セラピーではボツリヌス治療の前後に筋緊張の検査や関節の動き、動作の評価、ご家族の満足度を聞き取りながら効果判定を行っていきます。また薬の効果が消失する 3 か月後に再度身体の評価を行い、治療継続の有無をご本人・ご家族・医師・セラピストで検討していきます。